



4 2名の1年生を迎えた入学式から 2 週間がたち、「学校探検！」も終わって学校にずいぶん慣れてきた1年生、ひらがなの学習が始まったり、宿題が出たり、勉強も本格的になってきました。

今週の初めその1年生がすてきな花束を校長室へ届けてくれました。タンポポ、ナズナ、ツクシ、ヒメオドリコソウ、学校の庭を散歩しながら集めてくれたそうです。4月の今頃、桜の開花を待つ頃から地面に咲いている美しい野草を選んで、届けてくれた子どもたちの気持ちに感動しました。そして、この優しい心を大切に育てて行かなくてはいけないという思いを強くしました。

私の尊敬する大先輩、毛涯章平先生の「ふきのとうの饞別」に描かれている本当に気持ちの美しい子どもたちが、ここにもたくさんいることを思い、この子どもたちのすばらしさを感じられる感性を、本校の先生方とさらに磨いていきたいと思っています。

この時期の野辺に群生している紫の花が「ヒメオドリコソウ」という名前であることを、届けてくれた子どもたちは知りませんでしたが、「あ、蜜がある花」と、どんなところに咲き、どんな花であるかは、すでによく知っていました。豊かな地域の自然の中で、実際に体験して得た知識をしっかりと獲得して来ていることに、この子どもたちをすくすくと育ててきた保育園、幼稚園、そして地域の方々の養育の確かさも感じました。

今年、更級小学校では、生活科の授業を舞台に、幼稚園・保育園との連携をどのようにしていくか研究を深めていく計画があります。この子どもたちの育ちを引き継ぎ、さまざまな教科学習への興味、関心へとスムーズに移行していくような取り組みが全校でできればと願っています。

ここ更級の地は、明治22年に羽尾、若宮、須坂の3村の合併に際して、時の塚田小右衛門村長が尽力され更級村と名付けたことが、更級＝姨捨山の地という、アイデンティティとなっていると聞いています。更級郡という名が平成の大合併でなくなったあと、平安の頃より現在までも全国ブランドである「さらしな」という

1年生が引き見事に関いたくす玉
4/18 1年生を迎える会で



名を、この地域が一手に引き継いでいるように感じます。

「さらしなの里友の会」の方々が主催する秋の「縄文まつり」に、全校で参加することをはじめ、地域の方々の通学の安全確保への献身的な活動など、日頃から、子どもたちは地域の方々に出会い、顔見知りになる機会を得て、この地は「地域で子どもを育てる」をまさに実践しているところです。

子どもたちにとって、家族以外にも自分を見守ってくれているたくさんの方々と出会うことができるこの地に育つことは、本当に幸せなことだと思います。幼い頃に、守られ、愛された経験は、一生を生き抜く基盤となります。地域の方々と子どもたちとの信頼の絆をより一層深めるために、「あいさつ」をはじめ、温かい人との関わりが進んでできる子どもたちを育てることが、まずは本校の使命と思っています。

「目を上げ、手を組み、たくましく進む子」は本校の学校目標です。これからも、保護者の方々をはじめ、地域の方々とがっちり手を組んで、生まれ育った地域を大事にし、たくましく未来に生きていく市民を育てていく教育に、更級小学校は邁進して行きたいと思っております。



6年生の見事なマーチング：決まりました。さらしなあんぱん隊（3年生）も登場「1年生を迎える会」

よろしくお願ひします。平成20年度の更級小学校オールスタッフ

学校長	^{かずなり} 伊藤可主也（木曾養護学校より 帰省先：安曇野市三郷）
教頭	青木 幸雄
1学年担任	1組 山崎 葉子 2組 篠田 ^{のぶひこ} 暢彦（東小学校より）
2学年担任	1組 北村美栄子 2組 倉石多美恵
3学年担任	1組 内田 浩之（教務主任） 2組 中山 卓美
4学年担任	1組 石坂恵美子（治田小学校より） 2組 岸田 雅彦
5学年担任	1組 松島 ^{ゆたか} 裕 2組 宮崎すみ子
6学年担任	1組 池田 正幸（児童会担当）
	2組 杉木 達朗（特別支援教育コーディネーター）
3組担任	^{としひさ} 平原 稔久 音楽・家庭科担当 横山 和美
養護教諭	鳥羽佳代子 事務主幹 海野万喜子
図書館司書	細川まゆみ 庁務員 森田 正和
介助員	清水有里子